

第8回の放課後チャレンジは、佳づ輝会^{かづてるかい}：楽謡会の皆様の指導で「和楽器に親しもう」を行いました。今回は、「太鼓（しめダイコ：能や歌舞、民俗芸能の祭囃子、獅子舞や猿回し等使用さ



れるもの）」・「三味線」・「笏拍子（神楽等で使われるもの）」・「鳴子（もともとは田畑の作物を食べる鳥を追い払うための器具だったらしい）」・「さらさ（竹の板を束ねて半円に構えて、波打たせて音を鳴らす楽器）」の体験させていただきました。

最初に4棹の三味線によるメドレー「オースザンナ・メリーさんのひつじ

等」を聞かせていただいた後、「ソーラン節」（北海道の日本海沿岸の民謡。発祥地は積丹半島から余市郡にかけての地域と言われています。ニシン漁の歌として知られています。）を手拍子で打ったり、一人ひとりがバチをもって、



太鼓の演奏を体験させていただきましたりしました。また、

「さらさ」や「三味線」「鳴子」なども全員で



体験させていただきました。めったに触れることのできない日本の伝統的な楽器に触れることができ、とてもよい体験ができました。

和楽器の太鼓や三味線の皮の部分が、馬や鹿、ひつじなどの皮でできていることも知り、命をいただいている大切な楽器だということも学ぶことができました。

